

第1号議案 2023年度事業報告について

I. 法人の概要

1. 名称等

公益社団法人日本造園学会

英文表記：Japanese Institute of Landscape Architecture

設立等：大正14年4月14日社団法人日本造園学会設立

平成24年4月1日公益社団法人へ移行

2. 主たる事務所の所在地

東京都渋谷区神南1丁目20番11号

3. 会員

会員種別	会員数		増減(△)数
	本年度末現在 (2024.3.31現在)	前年度末現在 (2023.3.31現在)	
名誉会員	25	25	0
正会員	2,044	2,025	19
準会員	6	2	4
賛助会員	60	60	0
購読会員	78	82	△4
計	2,213	2,194	19

4. 会費

正会員12,000円、正会員(大学院生)9,000円、準会員(学部生)3,000円、
賛助会員1口18,000円、購読会員1口12,000円

5. 執行体制

理事の数：20人(非常勤)

監事の数：3人(非常勤)

職員の数：3人(常勤)

6. 公益目的事業

造園に関する調査研究、出版、講習・研修、専門教育推進・評価、表彰を通じて、造園に関する学術および技術の進歩をはかり社会の発展に貢献する事業

7. 収益事業等

なし

II. 事業の状況

1. 調査研究事業

(1) 一般研究

- ・ 研究推進委員会として、生態工学研究推進委員会、風景計画研究推進委員会、パークマネジメント研究推進委員会、グリーンインフラ研究推進委員会、都市公園リノベーション計画技法研究推進委員会、日本庭園のこころとわざ研究推進委員会、街路樹研究推進委員会を組織し、社会的要請に対応するための個別テーマによる研究を推進した。
- ・ これらの成果は、機関誌への掲載（出版事業）や全国大会における研究集会（講習・研修事業）等において公表した。

(2) 特別研究

- ・ ランドスケープ遺産インベントリー作成を継続して進め、各支部において関連する情報収集と調査研究活動を行った。

2. 出版事業

(1) 機関誌「ランドスケープ研究」

- ・ 機関誌「ランドスケープ研究」第 87 巻第 1 号～第 4 号を編集、刊行した。
- ・ 記事の内容は、全国大会関連記事、特集企画に加え、各種の連載記事、学会からの連絡事項等とした。
- ・ 特集企画のテーマは、「世界への発信に向けて日本のランドスケープを考える」（第 87 巻 1 号）、「日本庭園の継承と発展」（第 87 巻 2 号）、「ランドスケープ DX」（第 87 巻 3 号）、「生物多様性ーネイチャーポジティブの時代へー」（第 87 巻 4 号）とした。
- ・ 連載記事としては、「生きもの技術ノート」（第 87 巻 1 号～4 号）、「社会連携の最前線から」（第 87 巻 1 号～4 号）、「やさしい風景計画学」（第 87 巻 1 号～4 号）を掲載した。
- ・ 刊行作業では、造園に係わる研究者、実務者から構成される編集委員会を組織し、造園学術および技術に係わる各号のテーマや執筆者等を選定の上、原稿依頼、収集、校正、校閲や座談会記事の作成作業を行った。
- ・ 第 88 巻 4 号までに掲載する特集企画および連載企画内容、執筆者等を検討した。
- ・ 編集業務の効率化に向けた諸検討を行った。

(2) 同研究発表論文集

- ・ 造園に関する会員の優れた研究論文を掲載した研究発表論文集をランドスケープ研究第 87 巻第 5 号として刊行した。研究発表論文集への掲載が決定した論文の第一著者は、全国大会（講習・研修事業）においての発表が義務づけられる。
- ・ 論文集の刊行作業では、造園に係わる研究者から構成される論文集委員会を組織し、規程にしたがって投稿された論文を審査して、学術的水準を評価し、論文集への掲載の可否を決定した。

(3) 同オンライン論文集

- ・ 造園に関する会員の優れた研究論文、短報を科学技術振興機構（JST）が運営する「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）で、オンライン論文集第 16 巻を電子ジャーナルとして刊行し、公開した。
- ・ 論文集の刊行作業では、造園に係わる研究者から構成される論文集委員会を組織し、年 3 回募集を行い、規程にしたがって投稿された論文等を審査して、学術的水準を評価し、論文集への掲載の可否を決定した。

(4) ランドスケープ研究増刊作品選集

- ・ 会員による優れた造園作品に関する報告を掲載した「ランドスケープ研究増刊作品選集 (No. 17)

2024」を刊行した。

- ・ ランドスケープ研究第 86 巻第 3 号および学会ホームページを通じて「作品選集 2024」に掲載する作品の募集を行った。

(5) ランドスケープ技術報告集

- ・ 会員による優れた造園技術に関する報告を「ランドスケープ技術報告集 Vol.2, 3」として、電子媒体（本学会 HP および J-STAGE 上に PDF ファイルを公開する形式）で刊行した。
- ・ ランドスケープ技術報告集の刊行作業では、造園に係わる研究者や実務者から構成される技術報告集委員会を組織し、年 3 回募集を行うこととし、規程に従って投稿された報告を審査して、ランドスケープ技術報告集への掲載を決定した。

(6) Urban and Regional Planning Review (URPR)

- ・ 都市・地域計画に関する会員の優れた研究論文（英文）を科学技術振興機構（JST）が運営する「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)で電子ジャーナルとして刊行し、公開した。
- ・ 刊行作業では、都市・地域計画等に係わる研究者から構成される論文集委員会を、日本都市計画学会および日本計画行政学会と連携して組織し、規程にしたがって投稿された論文を審査し、学術的水準を評価し、論文集への掲載の可否を決定した。

(7) Landscape and Ecological Engineering (LEE)

- ・ 国際誌 LEE (Landscape and Ecological Engineering) の国際コンソーシアム (ICLEE) へ参画し、刊行・編集に関わる活動を行った。

(8) その他

- ・ その他、調査研究事業等に係わる出版物等を刊行した。

3. 講習・研修事業

(1) 全国大会

- ・ 2023 年度全国大会を、2023 年 6 月 16 日（金）～18 日（日）に南九州大学都城キャンパス（都城市）及び一部オンライン配信にて、教育者、研究者、実務者、学生、市民等を広く対象とした、公開シンポジウム、ポスターセッション、ミニフォーラム、研究推進委員会フォーラム、研究発表会、日本造園学会賞等表彰、企画展示等を開催した。3 日間にわたる全国大会の参加者は、総数 460 名を数えた。
- ・ 6 月 16 日（金）は、一大観光拠点である宮崎県東部日向灘に面した海岸沿い地域から、特に造園的観点においてユニークな場所を選び「日向灘沿岸ビーチサイドパーク&ガーデン巡り」として見学会を実施した。また、学生公開デザインコンペ「Landscape × Well-Being ～ランドスケープによる 21 世紀型成長戦略の提案～」の一次審査選考作品 10 組を対象とした二次審査会を南九州大学都城キャンパスにて開催した。
- ・ 6 月 17 日（土）は、定時社員総会の外に、2022 年度日本造園学会賞等の発表ならびに表彰式、学生公開デザインコンペティション表彰式、日本造園学会賞受賞者講演会、公開シンポジウム「ランドスケープ分野におけるデジタルトランスフォーメーションの広がり」と未来」、大会企画展示および学生デザインコンペの作品展示を開催した。
- ・ 6 月 18 日（日）は、研究発表会（2 セッション×5 会場および 1 セッション×1 会場・41 件）、ミニフォーラム（8 テーマ）、研究推進委員会フォーラム（4 テーマ）、学術タスクフォースミニフォーラム、ポスターセッション（64 件）を開催した。
- ・ 全国大会の成果は、機関誌等（出版事業）にも掲載し、公表した。
- ・ その他、2024 年度全国大会の企画・運営の準備等を行った。

(2) 支部大会

- ・ 2023 年度支部大会を、北海道、東北、関東、中部、関西、九州の各支部において開催した。広

く教育者，研究者，実務者，市民，学生を対象にした見学会，公開シンポジウム，フォーラム，研究発表会，ポスター展示等を実施した。

- ・北海道支部大会を，2023年10月28日（土）に札幌市立大学まこまないキャンパスにて対面で開催した。プログラムは，研究・事例報告口頭発表およびポスター発表，日本造園学会賞（著作部門）受賞者講演，シンポジウム「北海道の公園150年」，定時支部総会であった。研究・事例報告（口頭発表8件，ポスター発表30件）では優秀な発表に対して表彰を行った。
- ・東北支部大会を，2023年5月27日（土）～28日（日）に仙台国際センターにて対面で開催した。「危機に向き合い，変わるみどりのまちづくり～震災やコロナ禍を経て進化する花とみどりの価値～」を大会テーマとし，公開シンポジウム（参加者60名），研究・事例発表会（ポスター発表4件，優秀学生の表彰1件），エクスカッション（参加者15名）を行った。
- ・関東支部大会を，2023年12月9日（土）～10日（日）に対面で開催した。群馬県前橋市内を主な訪問地とする現地見学会「民産官学連携の地域まちづくり「めぶく。前橋」」，前橋工科大学にて，事例・研究発表会（口頭発表54件，ポスター発表37件），支部総会，公開シンポジウム「民産官学連携の地域まちづくり「めぶく。前橋」」，表彰式および交流会を開催した。研究・事例発表会では優秀な発表（口頭発表部門5件，ポスター発表部門4件）に対して表彰を行った。
- ・中部支部大会を，2023年12月16日（土）～17日（日）に開催した。16日は福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館と一乗谷朝倉氏遺跡の見学会を実施した。17日は福井市地域交流プラザ研修室・福井県民ホールにて，研究・事例発表会（口頭発表15件，ポスター発表12件），公開シンポジウム「風景まちづくり 地域を支えるランドスケープデザイナーたち」を開催した。研究・事例発表会では学生表彰として最優秀学生発表賞1名，優秀学生発表賞2名に授与した。
- ・関西支部大会を，2023年11月10日（金）～12日（日）に現地およびWeb上にて開催した。第18回日中韓国際ランドスケープ専門家会議との合同で見学会やシンポジウムを実施し，関西支部としての研究・事例発表会においては口頭発表11件，ポスター発表14件があった。また，研究・事例発表会では優秀な発表に対して表彰を行った。
- ・九州支部大会を，2023年12月9日（土）～10日（日）に対面形式にて鹿児島県の鹿児島大学郡元キャンパスで開催した。「ランドスケープ建築」を大会テーマとして，研究・事例発表会（口頭発表24件，ポスター発表24件），公開フォーラム，学生交流企画を開催した。また，研究・事例発表会では優秀な発表に対して表彰を行った。

（3）日中韓国際ランドスケープ専門家会議・国際シンポジウム

- ・第18回日中韓国際ランドスケープ専門家会議を，2023年度日本造園学会関西支部大会と合同開催の形式により，2023年11月10日（金）～12日（日）に対面および一部オンライン併用にて京都市内および周辺各所，京都大学北部総合教育研究棟他で開催した。見学会，学生企画ツアー，シンポジウム，口頭発表（15件），ポスター発表（39件）を行った。

4. 専門教育推進・評価事業

（1）JABEE 認定審査

- ・造園関連分野の大学等における実務者養成の支援，促進のためのJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定審査・認定継続審査の受審，審査申請予定校の支援として，審査員の育成等に関する情報収集および情報提供を行った。

（2）環境・造園系専門職大学院認証評価

- ・環境・造園系実務者の養成機能の維持・向上のために，環境・造園系専門職大学院の受審申請校1件（2022年12月申請）に対して，認証評価の審査を行った。認証評価の結果を，文部科学大臣に報告すると共に当学会ホームページで公表した。

（3）造園 CPD 制度（継続教育制度）の運営

- ・ 造園CPD制度に関して、会員登録、実施記録登録、実施記録登録証明書の申請、プログラム認定申請等の各種システムの運営、ならびに実施記録登録証明書の発行、認定プログラムの情報提供、各種問い合わせ等を行った。
- ・ 2023年度末（2024年3月31日時点）の会員登録者数は7,479人（前年度7,497人）、認定プログラムの総件数は493件（一括認定82件を含む）、登録実施記録証明書の審査発行申請は733件（再審査含む）となった。
- ・ 2023年4月1日から「教育形態表(2023年度版)」、「造園CPDガイドブック第6版」および「造園CPD会員復会手数料の徴収」が適用された。

5. 表彰事業

（1）日本造園学会賞・奨励賞・上原敬二賞・田村剛賞

- ・ 造園に関する学術、技術および芸術の進歩をはかるため、造園に関し特に優秀な業績をあげた会員である者もしくは会員を含む団体・組織に、研究論文、著作、設計作品、技術、事業・マネジメントの5部門からなる「日本造園学会賞」を授与した。また各部門に「奨励賞」を設けて授与した。加えて、造園の分野において著述、教育あるいはその他広範な社会活動を通じて造園の進歩・発展ならびに啓蒙に多大な貢献をしたと認められる者に「上原敬二賞」を授与した。また、自然公園および自然保護分野における研究論文、設計作品において優れた業績をあげ、当該分野の進歩、発展ならびに普及啓発に顕著な貢献をした者、ないしは著作、技術、事業・マネジメントにおいて優れた業績をあげ、当該分野の進歩、発展ならびに啓蒙に顕著な貢献をした者もしくは団体・組織に「田村剛賞」を授与した。
- ・ いずれも研究者及び実務者から構成される学会賞等選考委員会が、規程にしたがって審査選考を行った。2022年度に審査選考された授賞候補者について、理事会にて審議・決定し、全国大会において表彰した。
- ・ 2023年度表彰の各賞の選考審査を行った。

（2）その他

- ・ 若手研究者の支援と学術研究活動の活性化を図るために、全国大会における「学生公開デザインコンペティション」、「全国大会ベストペーパー賞」、支部における各種表彰等を実施した。特定の課題に対する計画・設計作品、論文・発表等について、専門家から構成される審査委員会を設けて審査する形式をとった。

6. その他

- ・ 2025年の学会創設100周年に向けて、学会の資産を記録・集約する「出版部会」、今後の学のあるり方についての展望を同時代的に共有する「記念行事部会」、時代に即した学会活動のための情報基盤を整備する「インフラ部会」を組織して検討を進めた。また2025年度全国大会を、学会創設100周年記念全国大会として、東京大学（本郷・弥生キャンパス）にて開催することを決定した。
- ・ 学会経営戦略会議を組織し、学会の中長期的な課題を調査・分析し、学会事業の活性化や持続的な学会経営基盤構築、学会運営体制の適正化のための方策を検討した。
- ・ 一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会と包括連携協定を締結した。
- ・ 学会の公益事業に関する情報の発信や会員サービスの向上等に資するために、学会ホームページの運用の改善を図った。

Ⅲ. 役員等に関する事項

1. 役員

役名	氏名	就任年月日	担当職務	手当	職名 (2024. 3. 31 現在)
理事・会長	柳井 重人	2009. 5. 23	総括	無	千葉大学大学院園芸学研究院教授
理事・副会長	荻野 淳司	2015. 5. 23	総務・支部・ 専門職	無	アゴラ造園株式会社代表取締役社長
理事・副会長	大黒 俊哉	2009. 5. 23	編集・校閲・ 作品選集	無	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
理事	横田 樹広	2023. 6. 17	総務	無	東京都市大学環境学部教授
理事	篠沢 健太	2015. 5. 23	企画・支部	無	工学院大学建築学部教授
理事	加我 宏之	2015. 5. 23	学術・専門職	無	大阪公立大学大学院農学研究科教授
理事	秋田 典子	2017. 5. 20	編集	無	千葉大学大学院園芸学研究院教授
理事	加藤 友規	2013. 5. 25	社会連携	無	京都芸術大学大学院日本庭園分野教授 植彌加藤造園株式会社代表取締役社長
理事	伊藤 弘	2021. 5. 22	論文集・校閲・ 学会賞	無	筑波大学芸術系准教授
理事	入江 彰昭	2019. 5. 24	作品選集・CPD	無	東京農業大学地域環境科学部教授
理事	村上 修一	2021. 5. 22	技術報告集・ 社会連携	無	滋賀県立大学環境科学部教授
理事	武田 重昭	2023. 6. 17	学術	無	大阪公立大学大学院農学研究科准教授
理事	村上 暁信	2023. 6. 17	編集	無	筑波大学システム情報系教授
理事	金子 隆行	2019. 5. 24	作品選集・CPD	無	株式会社ライフ計画事務所代表取締役
理事	栗野 隆	2023. 6. 17	技術報告集・CPD	無	東京農業大学地域環境科学部教授
理事	井原 縁	2019. 5. 24	論文集・校閲	無	奈良県立大学地域創造学部教授
理事	朝廣 和夫	2023. 6. 17	企画・支部	無	九州大学大学院芸術工学研究院教授
理事	五十嵐康之*	2021. 5. 22	編集・学会賞・ 専門職	無	横浜市政策局政策担当理事 都市整備局担当理事 (国際園芸博覧会推進担当)
理事	則久 雅司*	2021. 5. 22	企画・専門職	無	環境省自然環境局自然環境計画課長
理事	根来 千秋	2023. 6. 17	技術報告集・ 専門職	無	東京都建設局公園計画担当部長
監事	當内 匡	2023. 6. 17	監査	無	株式会社庭樹園代表取締役
監事	手塚 一雅	2023. 6. 17	監査	無	株式会社 CES. 緑研究所代表取締役
監事	愛甲 哲也	2021. 5. 22	監査	無	北海道大学大学院農学研究科教授

※理事の就任年月日は新任の際の就任年月日である。

※表中*は「公益法人の設置許可及び指導監督基準」および「同運用指針」に該当する国家公務員出身者である。

2. 支部長

支 部	役名	氏 名	就 任 年月日	職 名 (2024. 3. 31 現在)
北海道	支部長	椎野亜紀夫	2023. 4. 1	札幌市立大学デザイン学部教授
東 北	支部長	渡部 桂	2022. 4. 1	東北芸術工科大学デザイン工学部教授
関 東	支部長	木下 剛	2022. 4. 1	千葉大学大学院園芸学研究院教授
中 部	支部長	相田 明	2023. 4. 1	岐阜県立国際園芸アカデミー教授
関 西	支部長	広脇 淳	2022. 4. 1	神戸市北区役所山田出張所所長
九 州	支部長	田代 和則	2023. 4. 1	公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会みどり課長

3. 幹事

役名	氏 名	就 任 年月日	担当職務	職 名 (2024. 3. 31 現在)
幹 事	松尾 薫	2021. 6. 26	総 務	大阪公立大学大学院農学研究科准教授
幹 事	浦崎 真一	2019. 6. 29	企画・支部・ 学会経営戦略会議	大阪芸術大学芸術学部准教授
幹 事	新保奈穂美	2021. 6. 26	学 術	兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント 研究科講師
幹 事	寺田 徹	2017. 6. 17	編 集	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授
幹 事	荒木 笙子	2023. 7. 15	編 集	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻 助教
幹 事	水内 佑輔	2018. 6. 18	編 集	東京大学大学院農学生命科学研究科助教
幹 事	飯田 義彦	2021. 6. 26	社会連携 (国際)	筑波大学芸術系准教授
幹 事	高橋 大樹	2021. 6. 26	社会連携 (防災)	株式会社ランドスケープデザイン
幹 事	清水 一樹	2021. 6. 26	社会連携 (社会連携)	株式会社清水造園
幹 事	土屋 一彬	2017. 6. 17	学会賞	国立研究開発法人国立環境研究所 社会システム領域主任研究員
幹 事	中村 和彦	2023. 7. 15	論文集・校閲	東京大学大学院新領域創成科学研究科講師
幹 事	小宅 由似	2024. 3. 9	論文集・校閲	香川大学創造工学部助教
幹 事	西垣 和真	2022. 6. 25	作品選集	株式会社三菱地所設計
幹 事	永井 朝樹	2022. 6. 25	作品選集	株式会社オオバ
幹 事	貫名 涼	2021. 6. 26	技術報告集	京都大学大学院地球環境学堂助教
幹 事	西村 成貴	2023. 7. 15	技術報告集	株式会社ジェイアール東日本開発
幹 事	北村 葉子	2023. 12. 23	技術報告集	公益財団法人東京都公園協会
幹 事	二曾 綾	2023. 7. 15	CPD 推進・ CPD 登録記録審査	日本造園学会事務局
幹 事	岩崎 哲也	2019. 8. 31	CPD プログラム 認定	兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科准教授
幹 事	中島 宏昭	2023. 12. 23	CPD プログラム 認定	東京農業大学地域環境科学部助教
幹 事	尾山 真	2021. 6. 26	学会経営戦略会議	富山大学地域連携推進機構准教授

4. 職員

職 務	氏 名	就任年月日	担当職務	備 考
事務長	久住 悦子	2009. 10. 1	事 務	常 勤
事務職員	芹田 留美	1995. 4. 1	事 務	常 勤
事務職員	二曾 綾	2023. 4. 1	事 務	常 勤